



わかみどり

<http://hirabayashi-e.murakami.ed.jp>



「我慢強く」と「粘り強く」

平林小学校 校長 遠藤 直人

「我慢強く」と「粘り強く」 どちらも困難に対処する姿勢を表していますが、微妙にニュアンスが異なります。「我慢強く」は「耐える」ことが中心となり、「粘り強く」は「続ける」ことが中心です。

日本の成人の学習時間が他国と比較して圧倒的に短いことが話題となっています。総務省の社会生活基本調査によれば、日本の社会人の平均学習時間は週に13分と報告されています。自分自身を振り返ってみると、テストに向け「我慢」して勉強する、受験に向け「我慢」して勉強する学生時代がありました。学校を卒業したときには「もう、嫌な勉強をしなくていいんだー」と、勉強から解放された記憶があります。

学習にはやる気レベルがあります。

- ① やりたくない
- ② しかたなくやる
- ③ やらなきゃいけない
- ④ やるべきだと思う
- ⑤ やろう・やるぞ！
- ⑥ やりたい

①～④のレベルに子どもたちがいるのは当たり前だと考える人が多いです。子どもたち自身も、そう思っているのかもしれませんが（私もそうでした・・・）。「勉強は嫌でもやるもの」「ゲームができないから、しかたないけどやろう」という、「我慢強く」取り組むものと考えられることがあります。

平林小学校では、その前提を疑います。子どもたちが⑤「勉強をやろう！やるぞ！」⑥「やりたい！」と「粘り強く」学習に取り組むことを目指しています。この思いは職員も保護者も地域の方も誰もが同意できることだと思います。どの学校でも教育の最上位の目標になるのかもしれませんが。

では、具体的にどのようにすれば、子どもたちが「我慢強く」ではなく「粘り強く」学ぶようになるのか。平林小学校では、「学びの責任」を子どもたちに移していこうと考えています。現在、多くの学校で、教師が持っている「教える側」の「学びの責任」を平林小学校では、子どもたちに移していきます。「学びの責任」が子どもたちに移ると、子どもたちの「学び」が「やらされる」ものではなく、「自ら取り組む」ものになると信じています。なんだか、抽象的な表現で分かりづらいと思います。平林小学校が取り組もうとしている「学びの責任」を移すということについては、別の機会にお話しさせていただきます。

長なわ大会・短なわ大会

寒い、寒い冬は体を動かす機会が減ってしまいます。そこで、運動量を確保するために3学期はなわとび運動を推奨しています。



特に長なわは熱心に練習していました。回数を重ねるごとに新記録が生まれ、本番に向けて気持ちが高まっていたようでした。

本番当日、どの学年も気合十分で臨み、うれしい結果も悔しい結果もありました。

短なわ大会は、体育の時間を利用し1年生と6年生 2年生と5年生 3年生と4年生がお互いに数を数えたり応援をしたりして自己ベスト更新に向けてがんばりました。

長なわ大会結果

学年	回数	学年	回数
1年	83	4年	121
2年	84	5年	200
3年	145	6年	314



地域の方と楽しくと交流しました

地域や保護者の方から来ていただき、一緒に楽しく交流する超ロング昼休み。2月は、「モルック」という棒倒しゲームと折り紙を楽しみました。

モルックはやったことがある子も、初めての子も楽しく教わりながらゲームを楽しみました。折り紙は「つる」づくりや「紙飛行機」に挑戦！！どちらも希楽々の指導員の方や地域の方に教えてもらいながら活動していました。

今年度の超ロング昼休みは3月11日（火）が最終日となります。お時間のある方はぜひ、ご参加ください。

たてわり班であそびました

1年生から6年生までが混ざってつくる「たてわり班。2月18日（火）、班ごとに内容を相談して決めた遊びをしました。

ドッジボールやいすとりゲーム、ウノなどなど…、25分間のお楽しみタイムでしたが、どの子も満足したようで、にこにこの笑顔で活動していました。

春からは新しいメンバーで班をつくり、また、楽しい活動を計画します

